

経営比較分析表（平成30年度決算）

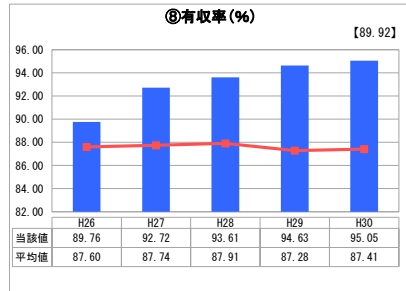
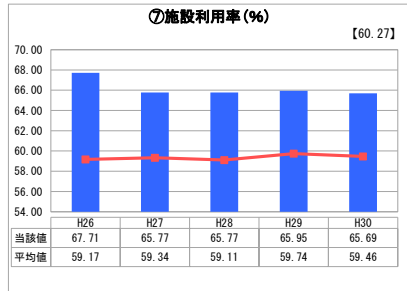
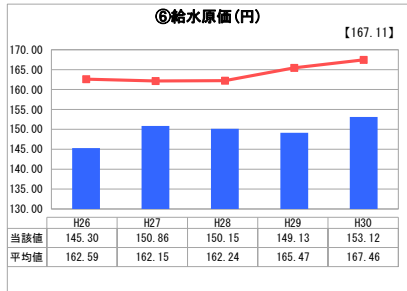
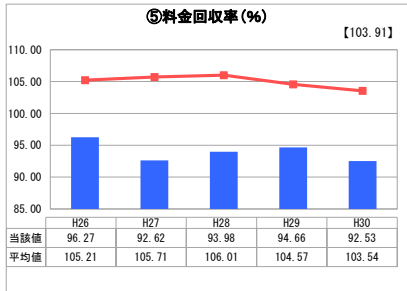
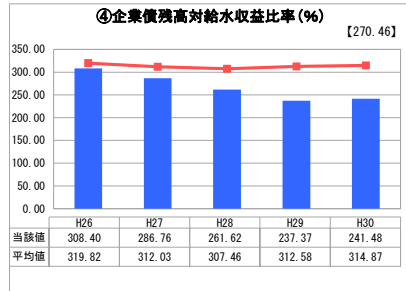
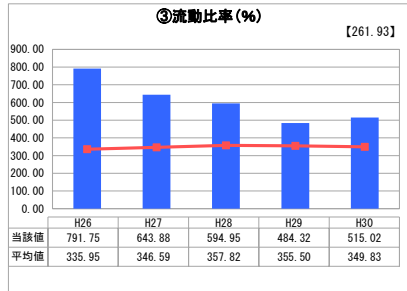
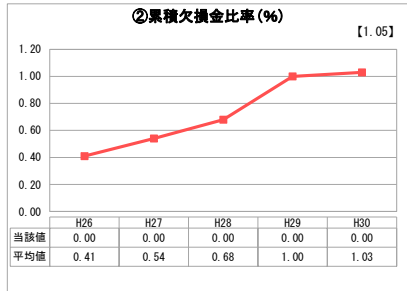
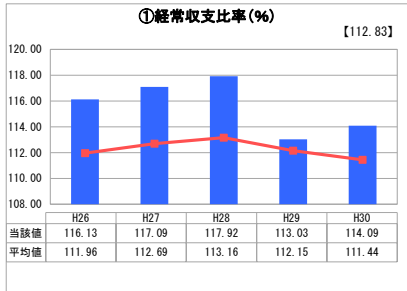
埼玉県 志木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり客産料金(円)	
-	74.56	100.00	2,246	

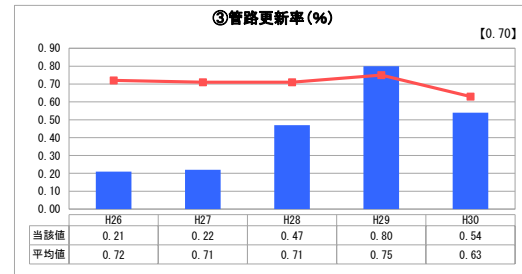
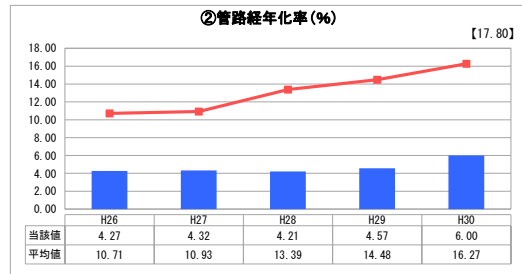
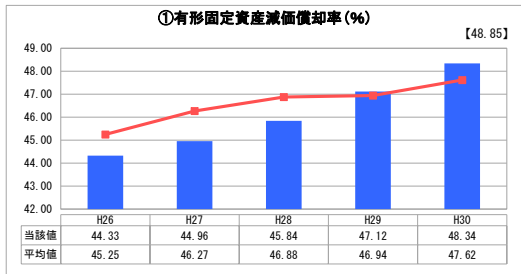
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
76,303	9.05	8,431.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
76,774	9.05	8,483.31

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
平成30年度までは、大規模開弁等による加入金の収入により類似団体より大きく上回った状況となっておりますが、令和元年度からは大規模開弁等の予定が無いため類似団体と同様な推移が見込まれます。

②累積欠損金比率
現状は加入金による収入により累積欠損金は発生していない状況を示していますが、今後は給水人口の減少や節水意識の向上により給水収益は減少が見込まれます。

③流動比率
類似団体平均値を上回っている状況ではありますが、今後は建設改良費等に充てる企業債の借入により類似団体平均値を下回る状況が見込まれます。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を下回る状況となっておりますが、今後は経営戦略とより計画的な施設整備改修による財源として企業債の活用により類似団体平均値を上回ると見込まれます。

⑤料金回収率
類似団体平均値より下回っており、1.00%に満たない金額については、給水収益以外の収入(加入金等)で賄われている状況ですが、今後の経営状況により料金の見直し時期の検討が見込まれます。

⑥給水原価
類似団体平均値を下回っていますが、平成29年度と比較すると上昇しており、今後より一層の経費削減に努めていく必要がある状況を示しています。

⑦施設利用率
類似団体平均値より上回っている状況で施設の利用率は効率よく稼働していることを示しています。

⑧有収率
類似団体平均値より上回っている状況で、計画的な管路の漏水調査や維持管理(耐震化等)により有効に収益へつなっている状況を示しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいる状況を示しています。今後、浄水場設備や管路等について、計画的な更新を行うことで、数値の改善が見込まれます。

②管路経年率
類似団体平均値を下回っている状況を示しており、昭和50年代に管路布設工事を多く行っているため、今後、管路の経年化が進む状況が見込まれるため、管路更新の財源確保を見据え、企業債の借入や適度な料金収入により計画的な更新を予定しています。

③管路更新率
類似団体平均値を下回っていますが、基幹管路・配水支管の更新についても計画とおり進めており、管路の更新率は、今後、向上していくことが見込まれます。

全体総括

志木市水道事業の現状としては、経営的には黒字で安定した状況ですが、料金回収率の数値が示すとおり、給水収益以外の収益(加入金)により賄っている状況は変わっていません。また、料金回収率は平成29年度と比較して低下しており、今後、人口減少による給水収益の減少、さらに管路の経年化が進む状況が見込まれていることから、今後厳しい経営状況が続くと予想されます。水道ビジョン・経営戦略の策定により、施設設備・管路等の更新に対する財源の確保のため、その費用に係る財源として企業債の活用を予定、そして適正な水道料金設定の見直し時期等について調査・検討を予定しております。